



広島県支部会報



平成26年6月15日

第65号 尾道市向東中学校防災研修

日時：2014年6月15日10時45分～11時50分

場所：尾道市向東中学校体育館

主催：尾道市立向東中学校、PTA

支援：日本防災士広島県支部南東部地区

参加者：全校生徒（213名）教職員（20名）保護者（120名）町内会役員（3名）
計（356名）

防災研修：「尾道市立向東中学校防災研修会」

1. 研修テーマ：『地震・津波から自分・家族・地域を守る』

講師：広島県支部南東部地区 防災士 細川龍彦

講演内容（主項目）：

- （1）東日本大震災での『大川小学校の悲劇』と『釜石の奇跡』の事例から【平常時の心構え】を学ぶ。
 - （2）地震・津波は何故起きるの？
 - （3）大地震発生時の、研修会受講の皆さんが受ける4種類の人的被害は？
 - （4）阪神・淡路大震災の「地震」を教訓とした被害減少方法は？
 - （5）東日本大震災の「津波」を教訓とした被害減少方法は？
 - （6）皆さんの住んでいる場所の「海拔」の理解と、安全避難方法と場所は？
 - （7）災害時の「家族との連絡と避難場所打合せ」「非常持出品の確保と場所」等を生徒と家族で話し合うことの大切さ。
- 上記7項目について、約1時間研修を行った。

2. 生徒の感想や意見：

- （1）家族と避難場所・災害発生時対応・非常持出品等を話し合いたい。
- （2）地震の時は、先ず自分の命を守ることが最優先で、その後友人・災害時要援護者の支援に回りたい。（中学生で出来ることを事前に検討したい）
- （3）今まで地震・津波は「他人事」と考えていたが、本日の研修会で、自分のこととして考え、家族と対策について真剣に話し合うことが重要と思った。
- （4）地震・津波の怖さが良く解り、日頃からの準備・訓練を行い、もしもの時にはとまどうことなく、速やかな避難が出来るように考えておくことが重要。
- （5）これからは、家族・学校・地域で団結して準備を行い、避難場所・方法・非常持出品・家耐震対策等を行うことが重要と思います。
- （6）災害時には、小学生・お年寄りなどの手助けをしたり、炊き出しをしたり、中学生として何が出来るかを家族・学校と話し合いたい。
- （7）心掛けで「生と死を分ける」の話が印象に残り、今出来ることを震災前に家族と話し合い、出来るだけ多くの方が助かるような協力をしたいと思います。
- （8）家の耐震工事・家具の転倒防止が命を守ってくれることが解りました。

また家族と話し合いをしようと思います。

- (9) 防災について関心が無かったけれど、平常時の心構えで「生と死を分ける」話を聞きこれからは、災害時困っている人を助けることが出来る中学生になりたいです。
- (10) 自分の命は自分が守ることは、すごく大切と思うが、助け合うことも大切です。特に災害時要援護者の人達を助けられる協力をしなくてはと考えさせられました。
- (11) 日頃からの、防災意識と心の準備が大切だと思います。
- (12) 海拔について理解することが出来ました。家族と話し合いたいと思います。
- (13) 災害時、中学生も皆さんのために何か役に立つことを家族・学校と話し合いたい。
- (14) 災害時に、中学生の行動が重要になってくると思いました。いざという時のために備えて日々生活しようと思います。

上記の中学生の感想・何が出来るか等の声を聞き、心強く思うと同時に、今後学校・家族と中学生の皆さんの連携で防災・減災に役立つ体制作りを期待します。 (細川防災士)

3. あとがき：

学校防災のスタートとなる有意義な研修内容でした。

地域の防災啓発活動は町内会が起点で、現状は一部を除き、全地域での成果はまだまだです。今回のように中学校が主体となり、生徒、教職員、保護者、町内会役員など地域の関係者が一緒に参加された防災研修はめずらしく、防災啓発の成果は充分あったと思います。地域には事情はありますが、重要なことは地域防災に対する課題、対策、取組み等を地域の人々が共有化し、協力する事です。

本会報が他の地域に対しても「南海トラフ巨大地震」への備えと共に地域防災の啓発活動に役立つことを期待します。

(広報担当 桑木)

4. 研修の様子：



中学生と保護者の皆さんの聴講の様子



細川防災士の話しを聞く中学生の様子

終り